

公共事業事後評価調書

1 事業概要		整理番号	R2	-	1
事業種別	治山事業	事業主体	青森県		
事業名	復旧治山事業	管理主体	青森県		
箇所名等 (市町村名)	矢吹沢 (三戸町)	事業方法	● 国庫補助 ○ 交付金 ○ 県単独		
		財源・負担区分	● 国 50% ● 県 50% ○ 市町村 % ○ その他 %		
事業の背景・必要性	当該地区は、平成23年9月21～22日の台風15号に伴う豪雨により、溪岸浸食や山腹崩壊が発生し、県道に土砂が流出する被害が発生した。溪流内には、依然として大量の不安定土砂が堆積しており、このまま放置すると、次期降雨等により下方に位置する人家や県道等へ、土砂が流下するおそれがあった。このため、土砂流出防止に有効な治山ダムや崩壊箇所を直接復旧する山腹工を施工し、地域の安全・安心の確保に努めた。				
主な事業内容 (事業量)	治山ダム工N=7基、山腹工A=0.66ha、護岸工L=44.3m、調査測量等N=1式				
想定した事業効果	《金銭価値化が可能な効果》 土砂流出防止便益 ・治山事業で森林の状態が良好に保たれることにより、土砂流出や山腹崩壊等の防止に寄与する便益 《その他の効果》				
事業の実施経過	《事業着手》 H24 《用地着手》		《工事着手》 H24		《事業完了》 H27
公共事業評価の実施時期	事前評価時 (H23年) 〔当初計画時〕	再評価時 (年)	事後評価時 (R2年) 〔最終実績〕		
事業期間(事業着手～事業完了)	H24 ～ H25	～	H24 ～ H27		
総事業費	84 百万円	百万円	152 百万円		
計画変更の実施時期	第1回計画変更 (H25年)	第 回計画変更 (年)	第 回計画変更 (年)	第 回計画変更 (年)	
事業期間(事業着手～事業完了)	H24 ～ H27	～	～	～	
総事業費	169 百万円	百万円	百万円	百万円	
特記事項	【事業費の増】 事業採択後の降雨等により、溪流内に異常な堆積土砂など荒廃区間が拡大したことや、新たな山腹崩壊が発生したことから、治山ダムの個数(3基→7基)と、山腹復旧面積(0.30ha→0.66ha)が増えたことにより、事業費の増及び事業期間の延長が生じた。				
《事業概要図》					

担当部課室名	農林水産部 林政課	電話番号	017 - 734 - 9524
		E-MAIL	rinnsei @pref.aomori.lg.jp

2 事業完了後の状況

整理番号 R2 - 1

社会経済情勢等の変化

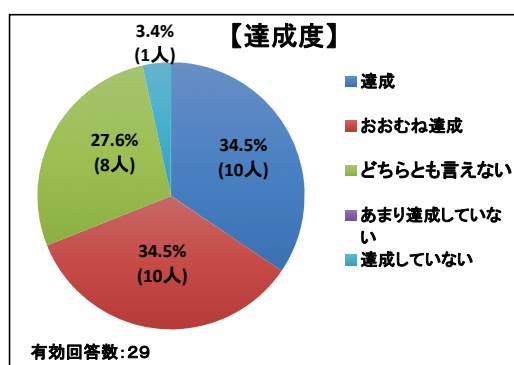
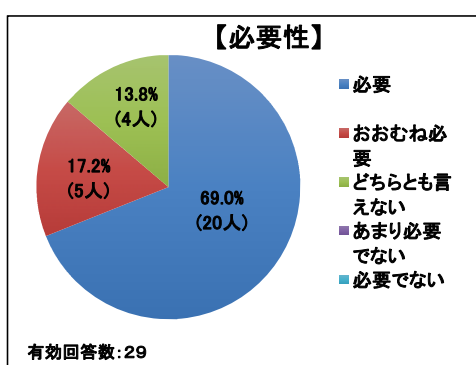
・近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生している。特に大雨による被害が頻発している。
・多発する気象災害に対応したインフラ施設整備が急務となっている。

費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

・費用対効果分析表の費用や便益項目の見直しにより、前回評価時より費用及び総便益が増大した。
◆総費用(現在価値化のための社会的割引率及びデフレータの反映)
◆土砂流出防止便益(単価等の見直し及び算定基準をH25年からR2に変更したことによる増加)

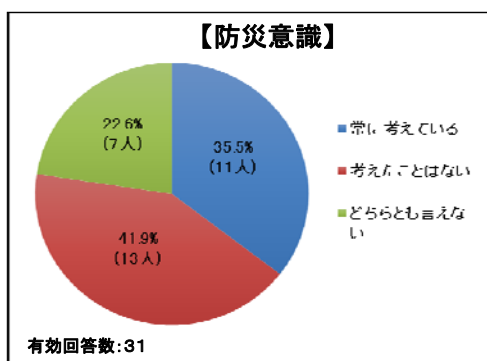
《金銭価値化が可能な効果》
・土砂流出防止便益の効果【年間便益額36百万円】
治山事業により溪流の保全や地域の安全を確保する事業目的がおおむね達成された。

・問7【必要性】に関するアンケート結果
「必要であった」「おおむね必要であった」と回答した人が合わせて86%となった。
・問8【達成度】に関するアンケート結果
「達成された」「おおむね達成された」と回答した人が合わせて69%となった。



《その他の効果》
問12【防災意識度】に関するアンケート結果
「常に考えている」が35%、「考えたことはない」「どちらとも言えない(わからない)」が65%を占めており、防災意識向上は依然として大きな課題である。

事業効果の発現状況



《参考(費用便益比)》

	事前評価時(H23年)	前回評価時(H25年)	事後評価時(R2年)
総費用(C)	79 百万円	170 百万円	192 百万円
総便益(B)	327 百万円	1,513 百万円	1,940 百万円
費用便益比(B/C)	4.14	8.90	10.10

《特記事項》

—

<p>事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>・本事業で整備した治山施設は、県が維持管理を行っており、事業完了後5年経過したが、施設の損傷は生じてはいない。今後も定期的な点検を実施し、施設の機能維持に努める。</p> <p>問9【管理状況】に関するアンケート結果 管理状況が「適切」「おおむね適切」と回答した人の割合が55%となっており、「適切でない」「あまり適切でない」と回答した人はいなかった。しかし、「どちらとも言えない(わからない)」と回答した人が45%となり「管理というがどういうことを行っているのかわからない」という意見があった。</p> <div data-bbox="422 331 810 604"> <p>【管理状況】</p> <p>有効回答数: 29</p> </div>
--------------------------	---

<p>事業実施による環境の変化</p>	<p>《「環境影響への配慮」の効果発現状況(特に留意した配慮内容がある場合)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立自然公園区域内であることから、山腹工の緑化について、周辺から自然飛来する種子の定着による工法を採用し、周辺植生に悪影響を与えないよう配慮した。 ・県立自然公園区域内であることから、道路通行時視界に入るNo.2～No.5ダム4基分についてダム前面に木材利用化粧型枠を施工し景観に配慮した。 ・事業完了後は土砂の流出が見受けられず、被災によって裸地化した斜面は森林への復元を図ることが出来た。 <p>《その他の環境の変化》</p> <p>・問10【環境変化】に関するアンケート結果 「良くなった」「やや良くなった」が合わせて54%となっており、「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した人はいなかった。</p> <div data-bbox="547 907 976 1209"> <p>【環境変化】</p> <p>有効回答数: 28</p> </div>
---------------------	---

3 まとめ

<p>改善措置の必要性</p>	<p>アンケート結果より、当事業の認知度は58%となり半数以上の人々が認知している。なお、改善点については「改善点がない」が24%で「改善点がある」の10%を上回り、「改善点がある」と回答した方から「ダムが土砂でいっぱいだ」「早いものは1年たらずに埋まってしまう」との意見があった。このため、治山ダムの効果や効用をより理解してもらうため、地元説明会や広報紙等を活用して、理解に努める必要がある。</p> <div data-bbox="414 1388 821 1680"> <p>【認知度1】事業実施</p> <p>有効回答数: 41</p> </div> <div data-bbox="901 1388 1300 1680"> <p>【改善点】</p> <p>有効回答数: 29</p> </div>
-----------------	---

<p>再度の事後評価の必要性</p>	<p>全体として事業目的は達成されているものと判断し、再度の事後評価は必要ないものとする。</p>
--------------------	---

<p>今後に向けた留意点</p>	<p>《同種事業の計画・調査の在り方》 治山事業による効果が十分発現しており、地域住民も効果を十分認知していただいていることから、これまでと同様に事業計画を策定する。</p> <p>《事業評価手法の見直し》 当該事業は「林野公共事業における事前評価マニュアル」に基づき、費用及び便益を算出しており、事業評価手法の見直しは必要ないとする。</p> <p>《同種事業の内容・手法等の在り方》 アンケート結果では、「今後の治山事業実施への期待」に関する意見が多くあったことから、同種事業の計画に当たっては地域住民との意見交換や地域防災計画に記載している山地災害危険地区の周知を図り、森林の県土保全機能を高める治山対策の認知度を高め、「災害に強い森づくり」を積極的に進めていく必要がある。</p>
------------------	---

<p>特記事項</p>	<p></p>
-------------	---------